

生態系アクションプランの進捗について

資料2-1

①平成23年度・父島ノヤギ排除 (東京都)

1 銃器による排除

【作業区域】

・右図のとおり

【実施期間・時間】

- ・平成23年5月～平成24年2月
- ・おがさわら丸の入港日から出港日まで
- ・観光繁忙期は除く

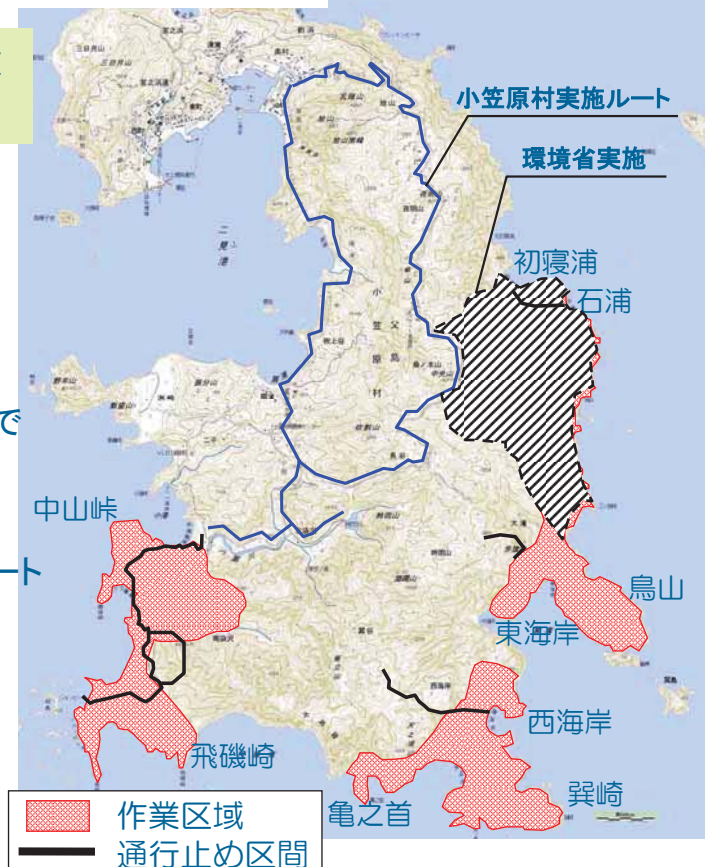
【遊歩道等の通行止め】

利用者の安全性確保のため、一部ルートで通行止めを実施

(対象ルート)

- ・小港～ジョンビーチ方面遊歩道
- ・初寝浦～石浦 林野庁指定ルート
- ・西海岸方面 //
- ・赤旗山方面 //

(平成23年11月以降より実施)



2 追込み捕獲による排除

【作業区域】

- ・中山峠・南袋沢周辺で実施

【作業内容】

- ・ブタ海岸に捕獲柵を設置
- ・大勢の作業員がノヤギを捕獲柵に追い込みます。

【実施日・時間】

- ・10月～1月に月1回程度
- ・おがさわら丸出港中に実施



3 罾による排除(首くり罾)

- ・ノヤギの通り道にワイヤーロープで輪を作り、首に絡めることにより捕獲する。
- ・遊歩道等の近くには設置しない。
- ・設置箇所には看板により注意喚起



4 集落周辺における試行捕獲

- ・銃器使用が困難な集落周辺において、誘引等による新たな捕獲手法を試行
- ・奥村地区の父島保育園隣接地で実施



➤ 父島ノヤギ排除状況

年度	環境省			東京都				小笠原村			計			
	銃器	わな	小計	銃器	わな	追い込み	小計	銃器	わな	小計	銃器	わな	追い込み	計
H22	34	0	34	82	0	20	102	219	30	249	335	30	20	385
H23	95	14	109	209	33	172	414	148	16	164	452	63	172	687

※平成22年度の実施期間は、環境省、東京都は平成23年1月から3月まで、小笠原村は平成23年4月から平成24年4月まで
 ※環境省実施分のうち、平成22年度の17頭、平成23年度の15頭、合計32頭は柵外で排除

➤ 植生への影響

- ・駆除開始から1年程度ではあるが、一部地域ではノヤギの低密度化により植生変化が見られ、在来植生回復のほか外来植物の侵入拡散が懸念される。



父島鳥山周辺



・草本類の生育変化が著しい

② 兄島等におけるクマネズミ対策（環境省）

兄島には、小笠原諸島の中でも母島の次に多くの種類の陸産貝類が生息している。父島は、ウズムシ（プラナリアの仲間）の影響で壊滅的な被害を受けているため、父島列島固有種の貴重な生息地として兄島の重要性は非常に高いものとなっている。

しかし、近年クマネズミによる食害が顕著に増加し、多くの種が危機に。

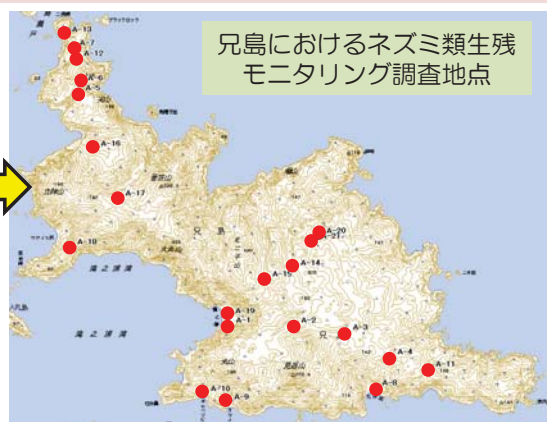
兄島でみられる、おもな固有陸産貝類



クマネズミの駆除作業の実施

2010年（平成22年）1月から3月にかけて、殺鼠剤の散布によりクマネズミの駆除を実施した。東島における海鳥や固有植物の被害、兄島における陸産貝類の被害が深刻であったため、その周辺の島々を含めて、クマネズミによる食害から固有の生物を守るべく、父島列島の8島（兄島、弟島、孫島、東島、西島、巽島、人丸島、瓢箪島）と聳島列島の3島（聳島、聳島鳥島、針之岩）にて、実施した。

ヘリコプターによる殺鼠剤散布



兄島におけるネズミ類生残モニタリング調査地点

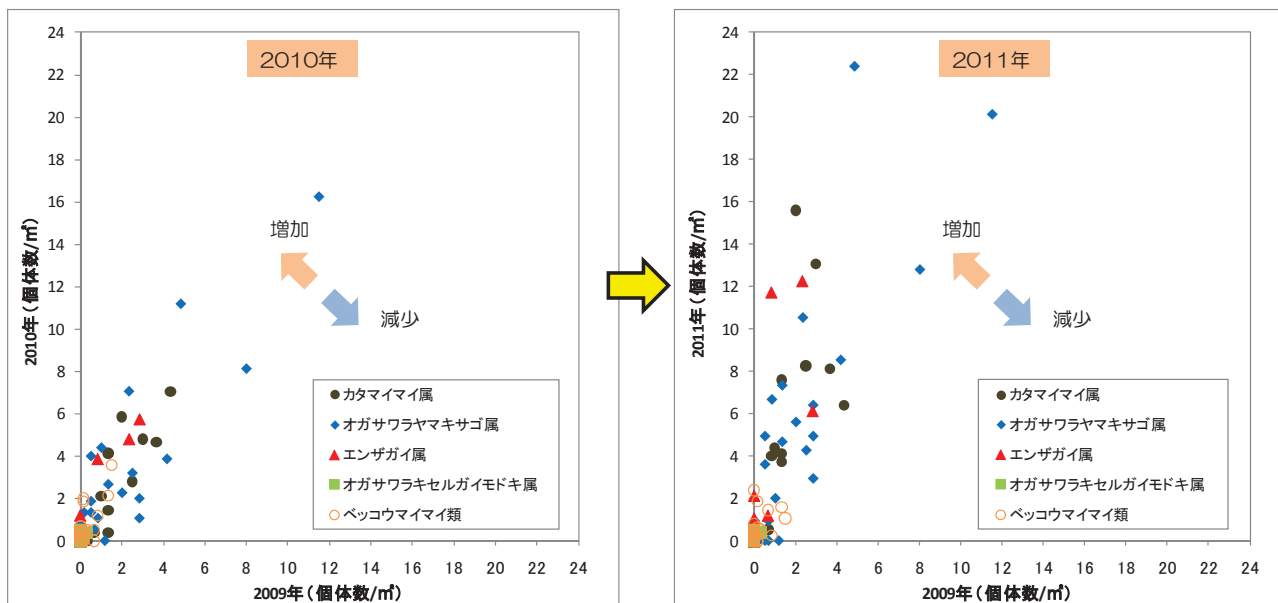


2010年3月以降、噛み跡トラップ、足跡トラップ、センサーカメラ、はじきわなどによる、ネズミ類の生残確認調査を継続して実施している。現在まで、兄島ではネズミ類の生残を示す証拠は得られておらず、兄島ではクマネズミが生息していないか、極めて少ない状態が続いていると考えられる。

駆除実施後における陸産貝類の生息密度の回復

2009年に比べ、2010年、2011年としだいに生息密度が高くなっている

特にカタマイマイ属、オガサワラヤマキサゴ属では、ほとんどの地点、種で増加という結果となった。また、オガサワラキセルガイモドキ属は、樹上生活のため林床調査では変化を検出しにくいものの、踏査中には樹木の樹幹や葉上でよく確認された。



【グラフのみかた】

- ・ 兄島内13調査地での各種（計31種）の生息密度を表した。
- ・ ネズミ駆除直後の2009年の値（横軸）と2010年、または2011年の値（縦軸）を比較している。
- ・ 同様の分類群は同じマークで示した。
- ・ 黄色のエリアに点があれば2009年より増加、青のエリアにあれば2009年より減少。

③ 母島属島（妹島・姪島）における外来植物の駆除（環境省）

〇背景

母島属島では、鳥類等へのネズミの被害が確認されており、ネズミ駆除の実施を検討している。

ネズミ駆除を実施した場合、現在ネズミによる食害によって抑制されているリュウキュウマツ、モクマオウなどの侵略的外来植物が増加する可能性があるため、種間相互作用を勘案し、事前に駆除を行った。



〇侵入状況

妹島

リュウキュウマツ: 1群落(親木1本を中心とする約190本の群落)、

ギンネム: 純林1箇所(小径木による群落約0.3ha)、



姪島

モクマオウ: 1群落(小中径木約20本)

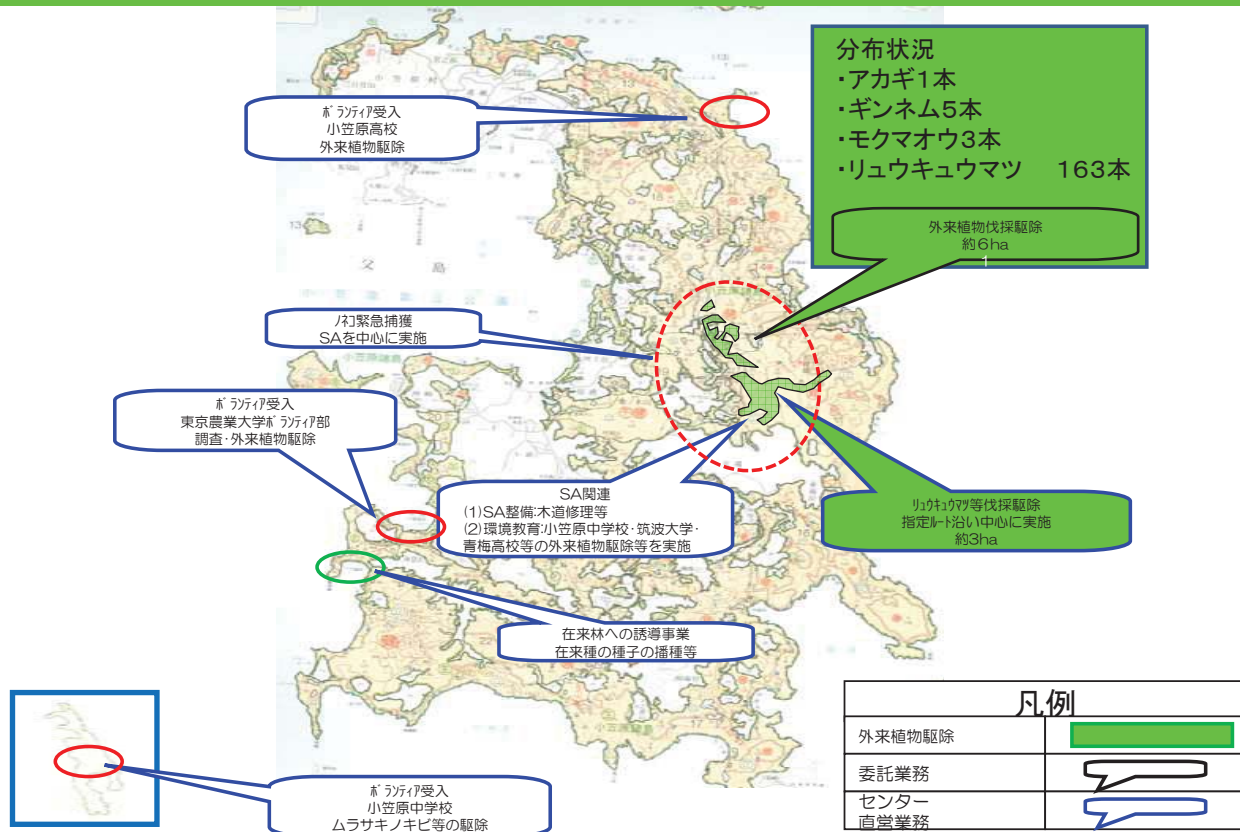


〇駆除の実施

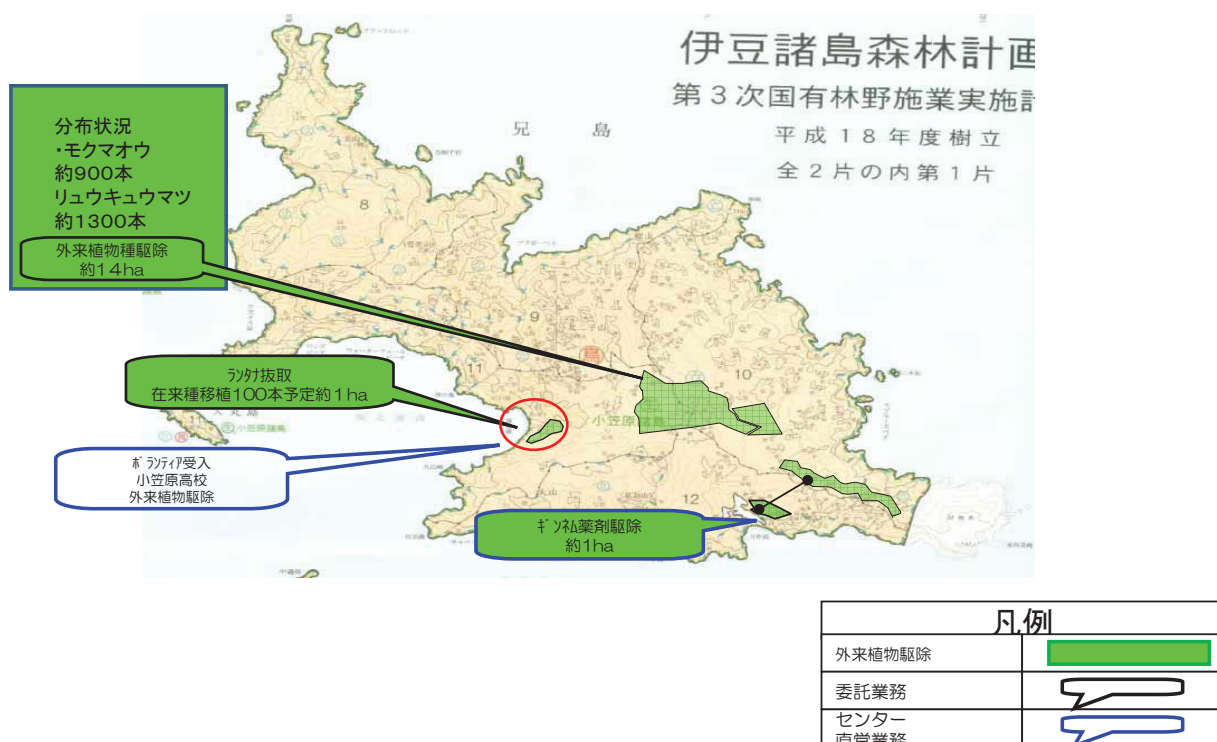
上記外来植物の初回駆除処理を実施。妹島のリュウキュウマツ成木、姪島のモクマオウ成木は駆除完了。これら外来植物種は自然による再侵入の恐れがないことから、根絶に向け駆除の徹底を図る(実生の除去)。

④ 平成23年度 外来植物の駆除事業の実施状況（林野庁）

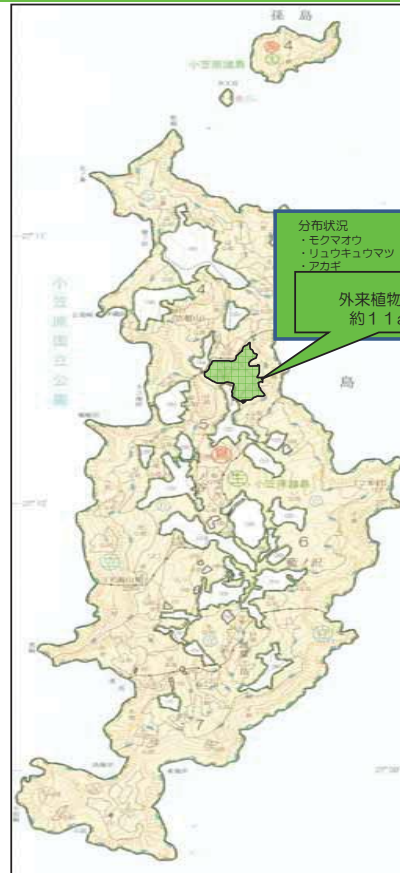
【平成23年度 主要事業実施箇所】父島



【平成23年度 主要事業実施箇所】兄島

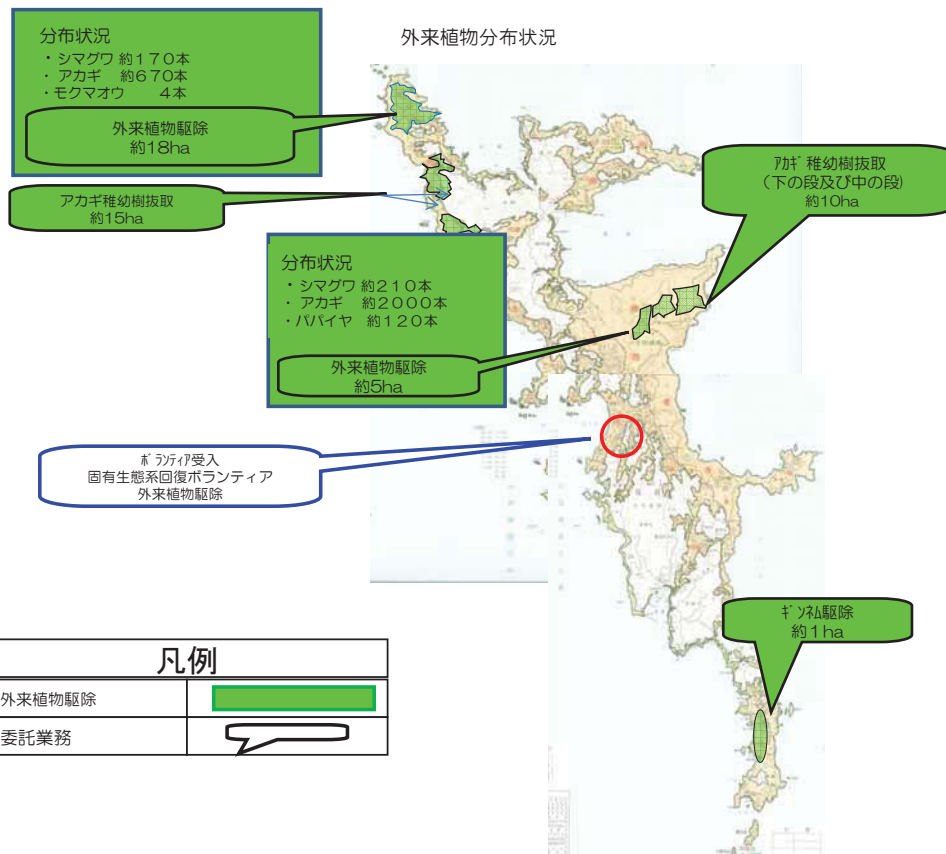


【平成23年度 主要事業実施箇所】
弟島



凡例	
外来植物駆除	
委託業務	

【平成23年度 主要事業実施箇所】
母島



凡例	
外来植物駆除	
委託業務	

⑤ 兄島でオガサワラハンミョウの新たな生息地を確認 (林野庁)

外来植物の駆除事業(薬剤樹幹注入処理、伐採処理、稚幼樹の刈り払い・抜き取り等)を実施に当たっては、これらの作業の前に外来植物の分布調査や駆除予定木調査を必要に応じて実施することとしています。

さらに、これら一連の作業の前には、区域の動植物の生息・生育状況の**事前モニタリング**を行い、小笠原諸島の固有動植物等の保全を図っています。

平成23年度は、兄島におけるモクマオウ、リュウキュウマツ等の外来植物駆除事業の事前モニタリングにおいて、オガサワラハンミョウの新しい生息場所を確認しました。

オガサワラハンミョウは、外来植物の落葉の堆積などにより絶滅が危惧される状況にあり、今回の発見は、オガサワラハンミョウ保全上も重要なものです。



兄島遠景



巣穴の調査

⑥ 母島でオガサワラシジミの新たな生息地を確認 (林野庁)

母島の湿性高木林ではアカギの繁茂が顕著であるため、その駆除を進めてきたところです。

最近、アカギの駆除により林冠が解放され、オガサワラシジミの食樹木であるオオバシマムラサキ等の生育環境が改善されたことにより、これまでオガサワラシジミが確認されていなかった場所で、新たに複数のオガサワラシジミの個体が確認できました。



オオバシマムラサキ



母島の湿性高木林

⑦ 森林性海鳥の生息環境の保全（林野庁）

小笠原諸島森林生態系保全センターでは、NPO法人「小笠原自然文化研究所」と父島列島の国有林において、「**モデルプロジェクトの森（東島森林性海鳥の地）**」協定を締結し活動を行っています。

平成23年度に、森林性の希少な海鳥である**セグロミズナギドリ**の生態モニタリングを実施するとともに、海鳥類繁殖地における外来植物の影響を調査し、外来植物駆除を含めた繁殖環境の修復事業を行い、生息地の保全を図っているところです。



東島遠景



東島の植生



現地調査